

水がなければ私たちは生きていけません。
水が私たち命、生活とどのくらい密着に関わっているのか、
もう一度考えてみる必要があるのかもしれない。

水は限りある貴重な資源です。

8月1日は「水の日」

8月1日～7日は「水の週間」



地球表面の3分の2を覆っている水ですが、私たちが直接利用できる水は、地球上の水全体のたった0.0001%だけなのです。そして、地球の水は、誕生してから今までほとんど変わることなく、地表と大気の間をくり返し循環しています。大気中に蒸発した水は、雨となって地表に降り注ぐ。今の私たちが使っている水は、数十億年前に作られた水が何回となく循環をくり返しているものを使っているのです。

では、私たちに身近な水を見てみることにしましょう。まずは、私たちの体自身の60%が水でできています。そのため、これからの季節は、特に体の水分量に注意が必要です。高温・多湿で汗をかき過ぎると、水分・塩分が汗と一緒に失われ熱中症を引き起こします。運動時などはこまめに水分を補給しましょう。

次に身の回りを見てみると、ごく普通の日常生活（食事、洗濯、風呂、トイレ、洗面、掃除など）では、一人一日当たり約230ℓの水を使っているといわれています。それ以外にも、産業用、農業用として水を大量に使い生活物質を作っています。例えば、私たちが食べるお米1kgを作るのには、約3トン近くの水が必要です。牛肉1kg作るためにはなんと約20トンもの水を必要とします。これら私たちが使った水は、川や海へと流れていき水循環の輪に戻っていきます。

さて、近くを流れる川に目を向けると、どうでしょう？きれいですか？

川を汚す最大の原因は、各家庭の台所やお風呂から出る生活排水です。しょうゆ大さじ1杯を台所に流した場合、魚がすめる水に戻すには風呂おけ1.5杯分の水が必要になります。てんぷら油、なべ1杯だと、なんと風呂おけ330杯も水が必要になります。

水は限りある貴重な資源。地球の水が汚れば、まわり回って私たちが口にする食物や日常の生活、私たちの体の中の水も汚れてしまいます。水についてもう一度考えてみませんか？

ちよつと一息！



嘉麻市下臼井にある 社会福祉法人翼会「つばさ学園」では、昨年4月から事業所や学校給食施設など食用油（植物性）を使用する施設から、産廃として廃棄されていた使用済み食用油を精製して、トラックなどのディーゼルエンジンの燃料として再利用する事業をスタートさせました。

園長の因幡 いなば ひろし さんは、「当施設を利用してある障害のある方と地域を結び、かつ利用者さんの賃金を少しでも増やすことができればと思ったのが本事業を始めたきっかけです。できる燃料は、どのディーゼルエンジンにも使えます。

また、二酸化炭素を吸って酸素を出す植物由来の廃油からできているため、地球温暖化防止協定上の二酸化炭素排出量はゼロカウントとなる環境に優しい燃料です。今年の4月からは、桂川町給食センターからも使用済み廃油をいただいています。できた燃料は、当施設のトラック、嘉麻市公用車や一部の事業所への供給分がやっとならざるを得ない面では厳しいですが、人にも環境にも優しいこの事業を今後も続けていきたいと思っております。」と話されました。エンジンをかけた施設のトラックのマフラーからは、天ぷらを揚げた時のようないい匂いが立ち昇っていました。



①：使用済みの廃油（植物油）



②：特殊な薬品を加えて不純物と油分を分離



③：②の上澄みを更に精製し、不純物を取り除く



④：完成して透きとおったリサイクルディーゼル燃料

【参考文献】

「からだによい水地球によい水」TOTO 出版、「暮らしの中の水百科」につかん書房、「すぐに役立つ水の生活学」けやき出版